This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

YAMAGA, YASUTARŌ PAPERS

FOLDER NO.
1-18

II. 11

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

義理堅い日本人、

一九三三、四、

十、イ毛かラクレート衣の方へ行く道の小高い岳の上に、大きな庭宅を構へ悠老境を楽しんで居た上院議員のプレタと言ふ人が居た、氏人は非常に日本人が好きで、其子のハロルドも父の感化か日本人好きでピースリバー区の代議士に出た人だが、よくパリエル街に来て、大正堂などに遊びに来て、日本料理や

内海の島々を一望の中へ納めた。

事業めしおど工ミみふ箸使ひで、つゝくのを恰
もみにしてゐたくらいである。
それにはこんなエピソードがある、今から
四十年も前の事でナゝイモ〈日本人は七種門
(ナゝエモ)
(註)が通り言葉であつた)には日本人は、漁者が少数居た位ひで、今
のやうにモーターボートの(漁船)無い時代で、オー
ルと三角帆丈で小舟をあやつり出漁したもので
ある日或る日の(俄)かに北風が強く吹きはじめ、
雪を加つて、ナゝイモの神は大吹雪に変はれた、そしてナゝイモの港をさして帰りを急

く小舟は、木の葉のやうに波に弄ばれてゐた。プラタ氏は締め切つた窓の中から望遠鏡と時計とを見比べながら、暫くすると、アッと叫んで雪吹のビューく吟る白外に飛び出し隣家へ走つた、小さな漁船が帆を三分一位ひに絞つて港へ向つて走つて居たのが、横波を被つて水船になり、次ぎの波で帆を下ろす暇もあらばこそ、帆が横に倒れたおれたなりに船は転覆してしまつた、船頭は船ぶちにしがみ付いて居るらしい光景が眼に入つたのである、

隣家の人のギャスポートで、共雄船の救助に
出たのである。言い遅れたが、波を除ける程遠くから救援に来て、先づ幼い鼠にかつてがつくる為へ、物も言へない漁者を助けて、船をそのまゝ救助船の後尾に括り付けプラタ氏が母親へ幾度に労を厚へた、プラタ氏が母親へ幾度に労れ礼をする漁者を見た時、これは土人であらうと思つた、兎も角、船は隣人に姓名を頼んでゞ、ズブ濡れの漁者を自宅へ連れ帰り、リビングルームのフローネに薪を、うんとへ焚

家人に手伝はせて、漢者の漆衣を、上から下まで、スッカリ自分の着替へ（と言ふより遍めてやり、奥さんが、温かいスープを作って喰べさせた、本人は温かくなって人心持になり、始めて、フォアーに跪（ひざまづき）手をついて頭を深く下げ神仏を拝むやうな敬虔な態度で言った言葉は只一言「サンキュー」それ以外に氏の漢者には胸一杯にある感激の念を表現する英語を知らぬ、かったのであろう、プラット氏は、それが日本人漢者にあつた事を知って、一哩程離れた

10 X 20

彼れのキャンプへ家人に送らせた。

　　氏事あって約一週間後の或る夜半プラン夕氏の宅へうかがった、何か箱入りの物が一つ、今一つ紙箱が一つ置いてあるのを（注った者が）家人が聖夜の贈物と思った、紙箱の方には、プラン夕氏の衣類がプレスされ、下着はきれいに洗濯されて置んで入れてあり、今一つの木箱（から）には二十吋もあり（美しい七宝焼の大花瓶が出て来た）そうな、東洋美術の実にプラン夕一家の人々を驚かした、早速おまねきあり本、プラン夕氏は、それをつくづくと眺めて居た、家

10 X 20

人は、フレダフルを連発して其の一人に対と
れを云る、プラレタ氏は、おもむろに口を開い
を言った、フレダフルは其親ばかりでは無い
と あの日本人の心こそ、吾々が学ばねばなら
んフレダフルだ、ものではないか、サレキユー
坛外に何も知らない事を知らないかった、あの日
本人の心持ちは、全く言のない置いを行った、
此等のもの(削除)以上に、感謝の意を
表明して余りがある、フレダフル氏だ
と それ以来同氏は日本人排斥などに対して

10 X 20

( ) Y. YAMAGA

心から友情と、
日々人の為に讃美献身を
に与えた。

10 X 20

NO.

聖公会

フロレンス・ナイチンゲール と
ジョン・スタイサースト牧師 との 和を戀 一八二〇―一九一〇

オルタリオ州、エの村に在る七
ト・ジョセフ教会堂の東南面の
壁に、鋼鉄の貴重品箱(前面略手帳)が嵌め
作られてある、(銀玉紙を)包みに
紙の類の聖餐式用器具が陳列してある、
此の聖餐式用器具こそは・世界中
の有名な悉皆的な悉皆的な
の中に於ける

NO.

高い所の、我遂には、身も心も
全く私の、青春の若弱を、献身と東
に別かを、人類と神の為めに、献上
へ、雑多な壁へ、忍び雑多を忍んで
遂に悪には砂も、聖業を完成した
フロレンス、十字チで分れ嬉とこ
ろ、スマイヤーストア牧師の果実
いつマンス生物治る造品の多
の・赤十字運動の基は熱の焔を好向
一八三六年・ (イツ国志)
従兄妹の心とと

軽犬の実現なのである。

フロレンスは彼等の初恋を仰天する立ひの両親に打ち明けたのであった。

結婚と国籍に関する英国各州の一般にそれはその総ての結婚は実に驚くべきものである。

ナイチンゲール家では此の上フローデンス直ちに厳禁に・・・そとを愛嬢フロレンスの激しい感情を抑えるために・・・嬢を連れて海峡を渡って大陸に旅行した。一方エドは

紡績機械の発明家の一人リチャード・オークライト卿の会社の従業員と結婚を続けていた。

彼を愛するようになった。

彼の努力は会社にも実を結び、大陸にまで販路を広げるようになった。

ある日、彼は妻に対して離婚を申し出た。

妻は驚いて、両親のもとへ帰ってしまった。

彼は妻を愛していたが、彼女の態度が冷淡であったので、彼女の愛情を試すために、わざと離婚を申し出たのであった。

彼女は彼の申し出を反対を続けた。

NO.

仍続き掌を夢の事

神なので、己こそフロレンスは心
強く、それに反し彼女はフロレンスを
慰さめようとした、フロレンスは絶
えず彼女の破壊に抗して勝つために一生
を病者への為めに献ずる看護婦に等
しい意を夢みた訳ではない、果して何を
するだろう？

フロレンス、ナイチンゲールの

宣教師は、教会行
に密接な関係を
持つ在るのだ。
人数的に多数
から、由一人宣
との依頼が度々
多在るのだ、
は一生を土人教
と考へたなら
を所。彼れは
も欲め

遠い属領の独立した土人から
カナダのレベル
宣教師の
八一独民地の土
ICMS.

ても揚がり、眼には希望の光が輝いた
、許されは基礎準備の為めにイスリ
ントンの官教師養成学校に入
学した、
一八三九年、業終り
の崇厳な按手礼を受けた後、許可
ンドンの大倫
敦は一意力ナ
民地に向つて船出した、基督地
は今のマニトバ州のウヰニペグ市
の昔もあるが、其当時の英国人に

NO.

とつては・世界の果てに往く冒険
旅行であつたのである・而もカナダ聖公会
の土人教化の宣教師の第一先鋒と
しても嶮しい旅行であつた・
それは最初ハドソン湾会社関係の
毛皮交易所に往き・それから漸次
教師等が入つて来る様になつた
時代・ハドソン湾会社の
牧師として派遣された
リーの毛皮交易所に往き・それから
先のであるが・其処に往く途中で
レッドクリーの土人達が自分達の
聯盟に・又は

NO.

の為めに結婚を延ばす
ことは、私としては
一に到着するや直ちに・土人教化
に留学をするコクレル宣教師を
同伴(ともなう)して英国(イギリス)へ帰国の
会社総支配人の職を辞退して全力を
土人教化事業に献げ
た、其時の彼れの
ふ…其結果は・
私は由早ハドソ
ンベー会社の総支配人
教師ではなく、

待つ

NO.

たゞ一人の修道者と成つた訳であ
る。自分の社會的位置からは小會
社の教職の方が・・・（給料が教職より多い）・・・需要次に定住す
遙かに好かつたのであるが、それ
でも私の良心が満足するかつたと
此の堅い決意の実行に着手した
と様な一班が・同じく彼の日
記の所々に表はれを居る・

「私の馬体は膝迄水の中を歩む
如く三時半もかゝ

NO.

つた程であつた」とか「暴風と雪の中で、私の靴はアブに凍り付き、私の馬は霜白くまり、其鼻の呼吸口の廻りにはつらゝが下つた」とか夏の数字の繋ぎには餘程困つたと見え「又冬が来たら此の苦しみから逃れるのが、どんなに有難いことであらう」と書いてある。

偉い哉の精神は敬

NO.

運動おけ　おかつた、性来、諸心
の多い　土人達が冬に於うを雪に降
り込められると、共社会に於ひ来
る機械と貧困と陰鬱とを感れおか
つた・特に今の少年ペ地方の
冬は非常に寒く殊に半歳は雪に閉ぢられ
る事もあり、状態が然おの如く、沙全とは
一般場合に於ても鉄を取つて土人を指導し、
自ら鉄を鍛ち土地を開墾と・穀物野菜を作り
、それを土人に蓄へて・終年の長

NO.

の冬期の食糧にした・此のやうな
社会の健康・教育の努力の記録が
彼れの日記の外にも多くある・

或年には二千斤のバファローの肉
と、四つと多量の牛肉や羊肉を氷凍
蓄え、一八七一年
冬越し、それは、
しが出来る為めの
穀物を積みのん
だ、小麦三万ブッシェル、大麦二万
ブッシェル・そしてポテトを二万ブ

いせん、それだけあれば土人子弟
教育の寄宿学校や貧困者を養うだ
けはあると思う」
・彼の指導の下に、土人地部落
の教化と社会事業は設立拡張され
、往道を部落から
、彼れの助力を一人の児を監
督と三人の学校教師を与へられた
・その他かしい多の中に彼れ
は種々(農)藝の試作をし、氏の

NO.

レッド・リバー地方にキューカンバー、キドニービーンズ・西瓜・その他の珍品迄が出来多くを招来した

終れは英・土辞書と土人が英語を習ふが便利に會話本を出版した

・そこを他の地方の土人教化の為めに設つもの寄宿學校を建てた・

そこを集會を催し・それに出席するために長途の旅行を企て・面上旅行を續けた

・そこを終れの事業を支援した

NO.

る所の英国の教会伝道協会との必要
亦多務を整理せ皆一人ゐやつを居
た、
此の許可の偉大なる命も隔れた
多業が一般に認められやうにな
つた多件が二新あつた、一八七六
年に、此のレヴィ・りバー独民地
へ百五十人の派遣隊が英国から美
国塞に達した、ゼ
ラルド白ら通信
ラルドは直ちに馬上七哩の途を毎日

曜を張ると定期説教師に出かけた、
そして病気を見舞い、旅館に泊まる若者達を慰労激励かねて、
の偉業が英国において、
ら共表彰認知とを一八九九年に
アニボイ中の
ハーリ植民地の統治団体」の一員に
指導任命された
係と、私とともは、そんな
多ばとうもの、彼れが大の聖

誰かが事実に報告する者があって

NO.

業に精進した精神は、土人の教化
事に奉仕するやうに彼れを導
いた。それに応える偉大な女性共人
愛する事数次、その
何もの如何かつ
た。此の愛の特
原始生活の子ノート・クリークの土
人の中で一百年
マイナスト
偉業は出来たのだ。
ここの宣教をそう
仕事が前進をノート

レントゲンりキであった子とフロレンスが英国に在る病院の大改善に成功したのも亦ベットレー病院に於ける単なる偶然だったのである。

レッドリバー植民地の土人の写真を見ると、年月の困苦窮乏と戦ひながら人と神に忠実に奉仕をした為、ミゼラブルな十二宮の表情は一般英国に帰った、或る親友が

NO.

移住論うした
は幕府に依ると、ヨ
出系はヒ男ロレスと結婚
かとの深い希望を抱
いて帰ったやうであるが、基金の
終結はそれを挫んだので
あった、一生一枚の悪に破れた
計画は約一ヶ年余に滞在した
後一九五二年再びカナダに帰つては
来たが、ロンドン・リバーの独
民地には足を向けなかった、そ

失望落膽し

NO.

てオレタリオ的
な工口的のセット・
・牧師としての
に依りて共教区
・工口的教会
つ、やつて居た
完成したのだ、
フワーがスセ方
彼れの活動を延
家庭訪問をとて
ち在る頃おつた・
ち、日が暮
る一人の男が

NO.

は一切を私に
捧げ尽したフロレンスが、
其愛人の許に
送り届けた其贈物
それを受取った
刹那の心に熱
れる物の如き
生涯中最も聖浄な
此贈
物に
纏綿の
心の
琴線に触れた
フロレンスの贈った心持
ヒシ
ヒシ
と
ヒシ
と
ヒシ
と

NO.

私あつたのである。それは一人
五二年と刻みんであつた。
フロレンスは、自分達の
ために、これから
るのに、ふさわしくない
世界へと成つた意を敷す
と得ることであろう。彼女
は彼女の意に代る希望とその看
護婦に成る国婦を選ぶ時を選んだ。ここに
は彼女の愛人に指名つた国分の責任
の極を越えて共聖業を遂成した。

NO.

即ち二人の両人が相互の愛を特殊にも上に尚は神と人類との為めに捧げ合した其の犠牲の綜合が、此のいみじくも尊とキリストの犠牲に依て人類が救はるゝ聖餐式の当日、此の両人が失意に苦しみ、人と神の為めに働きいた事を感謝し使命を果す時に於ては

キリストの血と肉とを表す即ちキリストの犠牲に依て人類が救はるゝ聖餐式の当日

「吾れ記念の為めに之を行へ」の聖句を繰り返す

又「吾れ記念の為めに之を行へ」の聖句を繰り返す毎に神に祈り而して感謝を

NO.

るの形ついた、

聖餐式「主の晩餐」の起源

ルカ22・19 山上の十字架の上の犠牲

と死を象徴する

主の最後の晩餐を象徴的に

掲げた予型の象徴と

のの形ついた。人類への奉仕

しそれは人類の肉体の

ため。ここで印は人類の罪

霊動とを改善のために

NO.

牲の為めに キヤ

一が此の両人の為めに

神の為めに

深いも

一口

の犠牲の為め

神

NO.

命を以の聖教会は、勇気ある
二人の信者をかち得た訳である。
訳で、スマイヤーストは信者か
ら教義を私も牧師として一八五七
年迄エロナのセントラル、エヨル教会
に在たのであるが遂に健康を害し
現職から引退するの止むなきに到
つた、健康を害し、周囲に気力
も衰へたらとく、絶えはをとトし
の叫は私の森の中に小さな家を

NO.

建て、共に私と
家をつりや、ハー
それは若き日、
チェルシーと呼んだ
・幸時の幸福を
の名を取つたのである
氏の孤独を楽しむ
幸福時で・彼れの
私を遠ざけるやうに
後年病れた思ひ
愛く・友の信ず

NO.

ロウに帰つて来て、
彼れの婚礼トムソ
ン牧師と共に清き
祷をなすと云つた、
而して彼の病床を看護
する銀細工の聖餐
の記念に・此の英
国の名医の手に成
る銀製器を贈つた
のであつた・

一八七七年・九月二日
没乱に富んだ壮年
の一生の幕が・
エロウの牧師館で
閉ぢられたのであつた・
ときに年

NO.

しい工口うの墓地に葬られ・終れた・

の為を標示した十字塚が建てられ

共尚フロレンス、十七七ゲー

心は共元職たる慈悲の仕事を続け

て居たのであるが・此偉大なる女

性が世界人類に貢献をした事蹟を

動の創始に始いそは蛇足を加へる

必要が全い位ひ世界中に知れ亘つ

たる事勿論・

たい一九一の年八

NO.

八月廿日、ロンドンのセント・ポール
ル寺院で盛大（莊嚴）の葬儀（祭）が執り行
正服に身を飾った人々の中に、あらゆる
際限なく白髪白髭の老騎士クリミヤ戦争の勇士が葬列に加つて居
たる事は申すへくもなく、
式の大寺院に溢れ会衆の誰一人として、カールの死を悼まざるものは
ニコラの開かれた墓地に四十年前眠つた勇士の
た所の縁式の縁大なる丈夫の意志

NO.

が在つた事を知る者は尠かつた

事も亦、而も此の失意の人が

しには、世界の人類を救ふ、毒十字

運動を生んだ「ロレンス、十字

ル市の市会議事堂の小さ尖塔

のつた、エルトン、エルに教会

は鉄箱に確子を納め、其中に此の

二つの英雄の前

英雄の魂の子孫と・苦難と最後

の勝利の象徴を撒る記念品を初つて

ある、